

宮中取水ダム試験放流に伴う
検証の内容(平成22年度:1年目)(案)

平成22年5月26日

宮中取水ダム試験放流検証委員会

平成22年度 調査・検証の内容

項目	調査内容	調査の目的等
河川形態	航空写真判読	各流量の瀬、淵等河川形態の状況を確認する。
河川水温	水温実測	夏季の流量における水温を確認する。
付着藻類	現地調査	夏季の流量における付着藻類の異常繁茂の状況を把握する。
底生動物	現地調査	底生動物の生息状況を把握する。
魚類の生息 及び遡上・ 降下	生息・生育状況調査	魚類の生息・生育状況を把握する。
	生息場の状況調査（澗筋）	魚類の移動のために必要な水理条件（水深）が確保されているかどうかを確認する。
	アユ生息・生育状況調査	アユの生息・生育状況を把握する。
	サケ遡上調査	サケの遡上数を把握する。
河川景観	写真撮影	各流量の河川景観を把握する。
河川水質	水質調査	各流量の河川水質を把握する。
河川利用	河川利用状況	釣りやその他の河川の利用実態を把握する。
	釣場適性把握	釣り場として利用可能な範囲を把握する。
	舟下り適性把握	河川利用の一形態として舟下り（ラフティング等）の適性を把握する。

平成22年度 河川形態調査(航空写真判読)

○調査目的

各流量 (50m³/s、100m³/s) の瀬・淵等河川形態の状況を確認します。

○評価方法

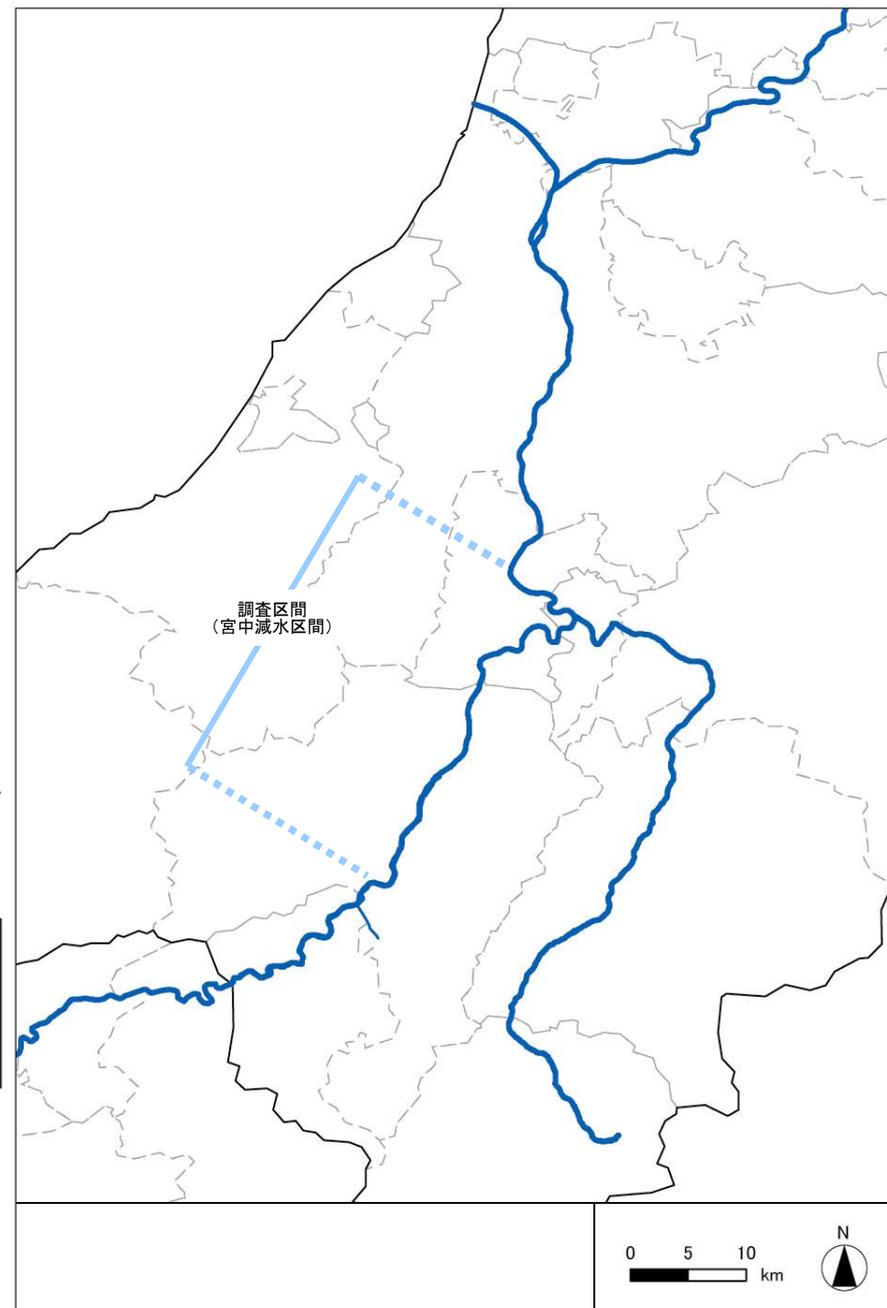
河川形態がより非減水時の状況に近くなっているか否かを、各要素の面積、構成比により評価します。

○調査時期

9/11～11/10の間ならびに11/11～12/31の間にそれぞれ1回。

○調査方法

航空写真を判読することにより、早瀬、淵等の分布状況を整理し、それぞれの面積を算出します。



平成22年度 河川水温調査

○調査目的

夏季の流量（80m³/s）における水温を確認します。

○評価方法

水温は各年の気象条件によっても左右されることから、宮中取水ダムへの流入水温との比較等により、総合的に評価します。

○調査時期

夏季の高水温期（7/26～9/5）を含む夏季の期間連続。

○調査方法

調査地点に水温の観測機器を設置し、水温を連続的に観測します。

河川水温の連続観測機器



平成22年度 付着藻類調査

○調査目的

夏季の流量（80m³/s）における藻類の異常繁茂の状況を把握します。

○評価方法

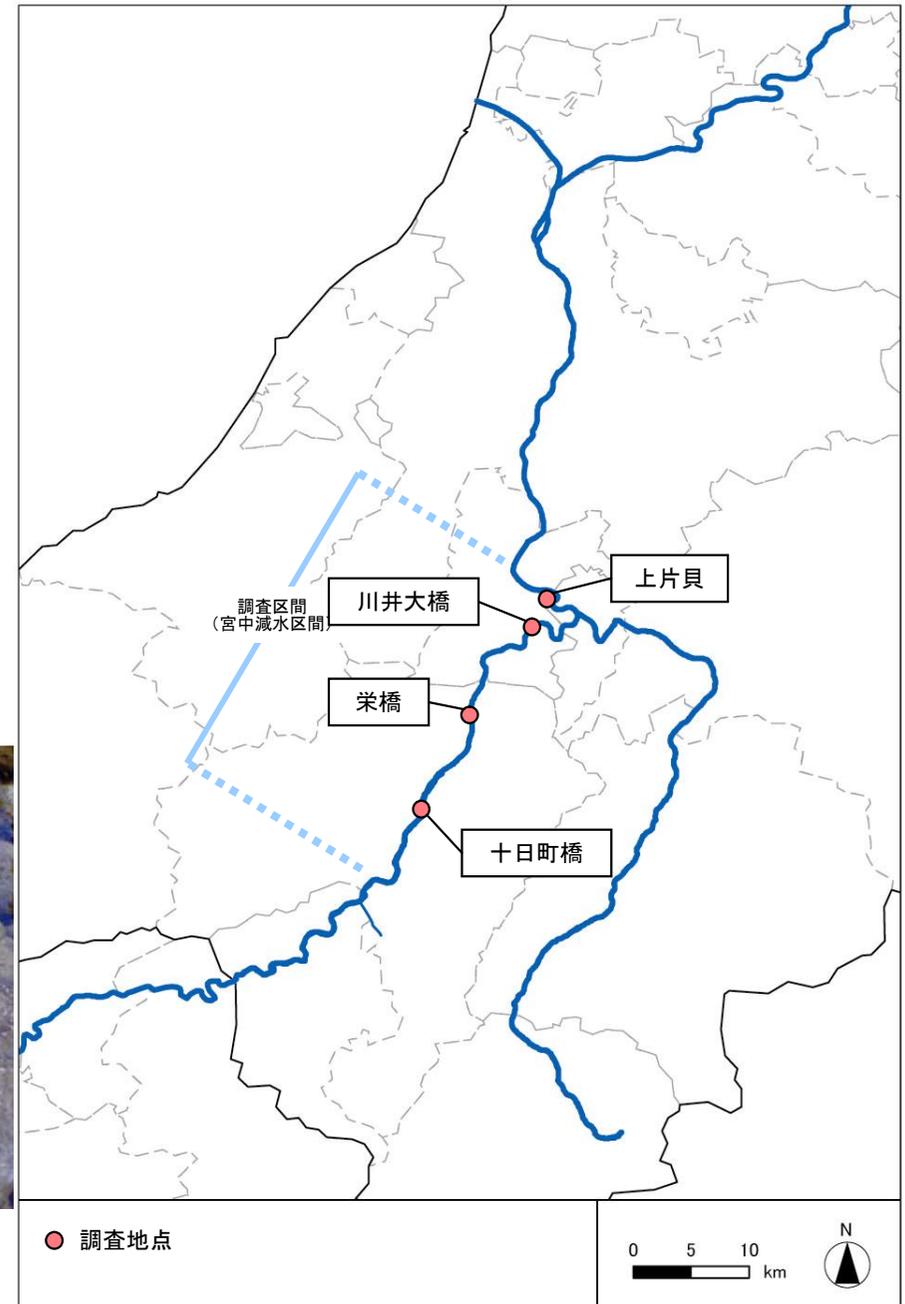
非減水区間における水域面積に対する異常繁茂面積の割合により評価します。

○調査時期

藻類の異常繁茂が課題となる夏季の間に3回。

○調査方法

踏査により、異常繁茂箇所を地図上に記録し、その面積を計測します。



平成22年度 底生動物調査

○調査目的

底生動物の生息状況を把握することを目的とします。

○評価方法

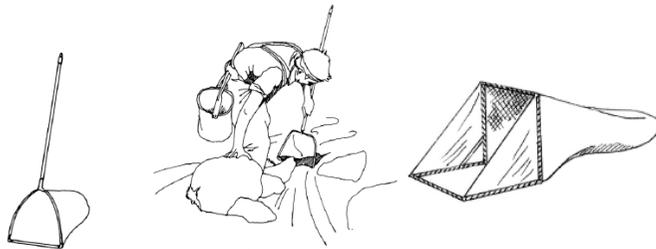
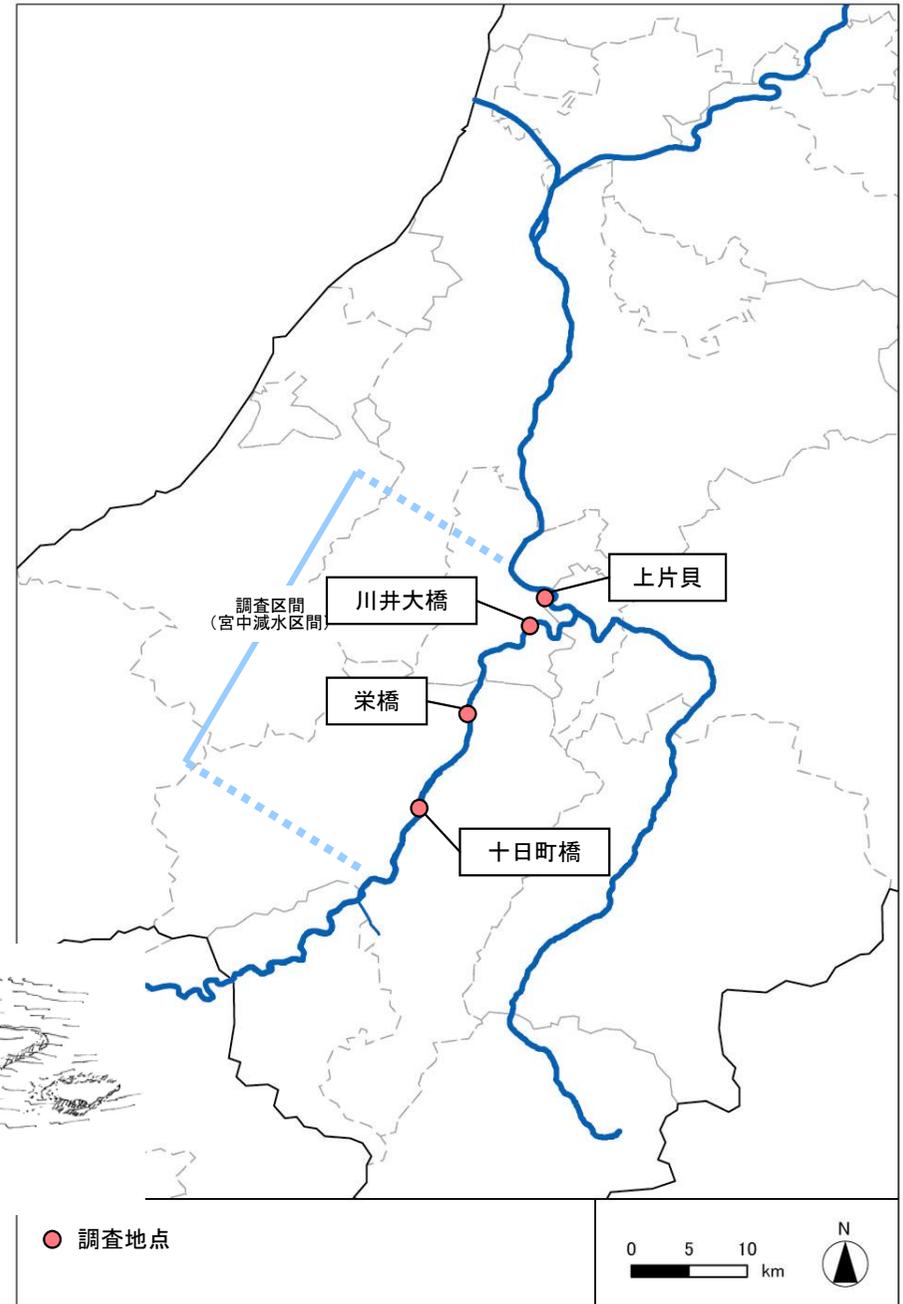
底生動物の種類数、個体数を評価します。

○調査時期

夏季に1回。

○調査方法

現地で川床に生息する底生動物を採取し、一定面積内に生息する底生動物の種類量を確認する（定量調査）方法と、環境を広くランダムに調査し、生息する種類を確認する方法（定性調査）によります。



Dフレームネットによる採集

サーバーネット

定性調査



定量採集

定量調査

平成22年度 魚類(生息・生育状況)調査

○調査目的

魚類の生息・生育状況を把握することを目的とします。

○評価方法

魚類の種類数、個体数を評価します。

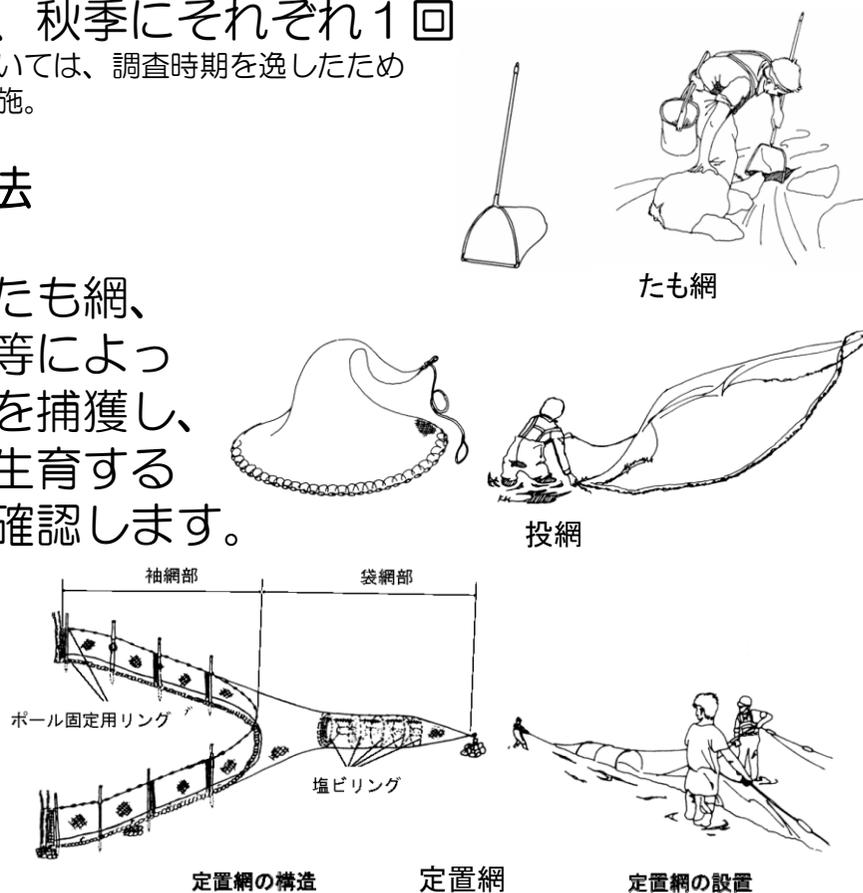
○調査時期

夏季、秋季にそれぞれ1回

※春季については、調査時期を逸したため次年度に実施。

○調査方法

投網やたも網、定置網等によって魚類を捕獲し、生息・生育する魚類を確認します。



平成22年度 生息場の状況調査(滞筋)

○調査目的

魚類の移動のために必要な水理条件（水深）が確保されているかどうかを確認します。

○評価方法

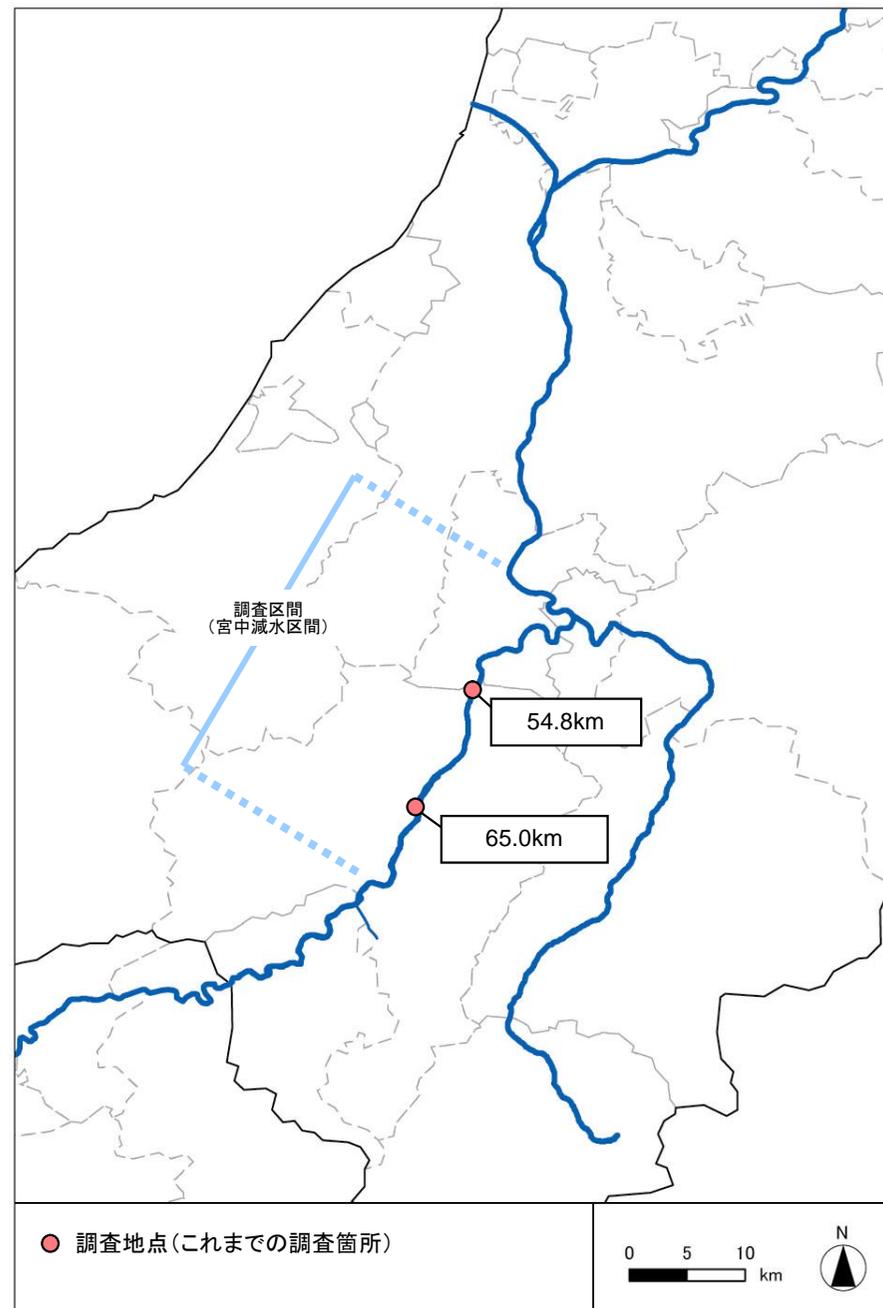
魚類の移動に必要な水深、幅が確保されているかどうかを評価します。

○調査時期

50m³/sならびに100m³/sの試験放流量が安定する時期にそれぞれ1回。

○調査方法

現地において、水際及び水深を確認し、平面図上に記録した上で、最も狭い箇所を計測します。



平成22年度 魚類(アユ生息・生育状況)調査

○調査目的

各流量の(50m³/s、80m³/s)のアユ生息・生育状況を把握することを目的とします。

○評価方法

アユの生息が認められるかどうかを評価します。

○調査時期

初夏季：6月初旬に1回。

夏季：7/20~9/10の間に1回。

○調査方法

初夏季に定置網等によってアユの生息・生育状況を確認します。

夏季に(アユがなわばりを作って生活する定住期)に、投網や潜水観察(水の透明度の高い場合)によって、早瀬や平瀬、淵といった異なる環境ごとのアユの生息・生育状況、個体数及びはみ跡を調べて、生息状況を確認します。

また、アユの生息・生育している地点の水深、流速や水温などを計測します。



平成22年度 魚類(サケ遡上)調査

○調査目的

遡上期の流量（100m³/s）におけるサケ遡上数を把握します。

○評価方法

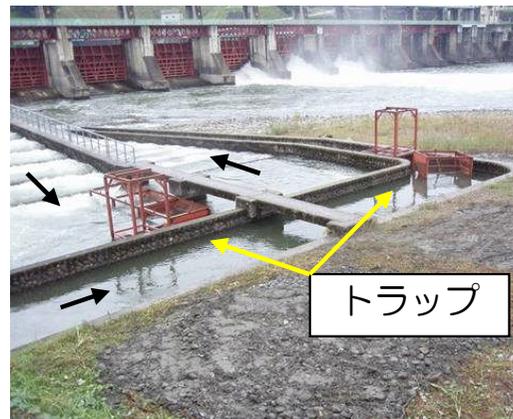
サケの遡上数を評価します。

○調査時期

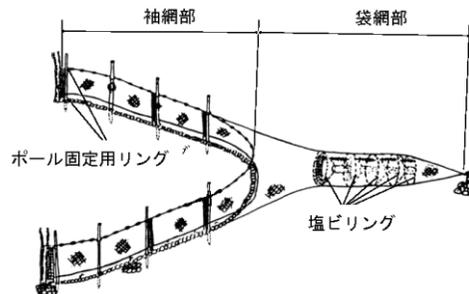
秋季：9/11～11/10の間連続。

○調査方法

宮中取水ダムにおけるトラップによる調査、減水区間における定置網等による捕獲、目視確認等を行います。また、捕獲日の流れの状況（流量、濁り等）を確認します。



宮中取水ダムトラップ



定置網の構造



定置網の設置



平成22年度 河川景観調査

○調査目的

各流量の河川景観を把握します。

○評価方法

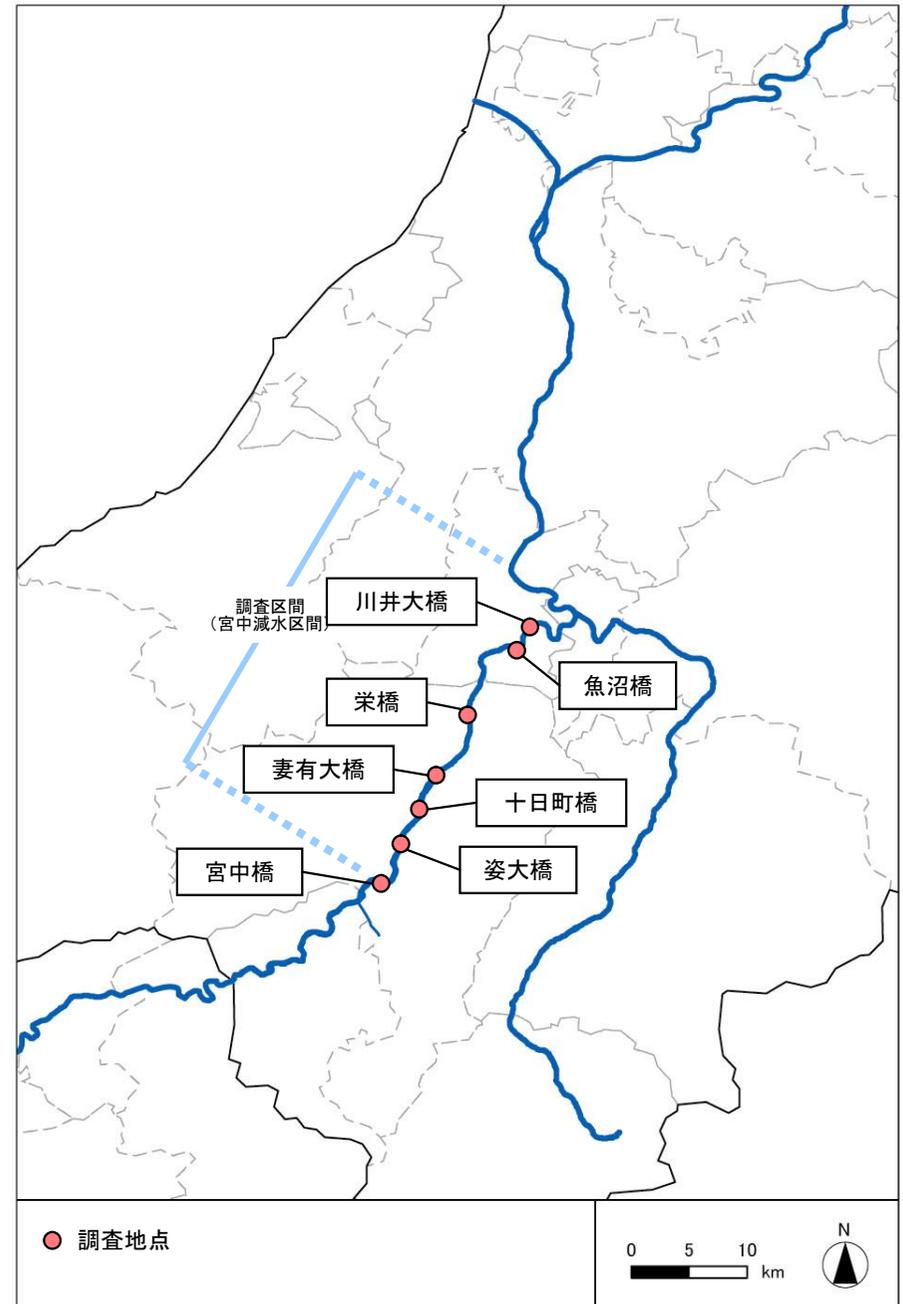
良好な景観の維持・形成を図るために必要な水理条件を満足しているかどうかを評価します。

○調査時期

6月～11月の間で各流量毎に1回。

○調査方法

橋上などのあらかじめ決めた場所から河川の写真を撮影します。



平成22年度 河川水質調査

○調査目的

試験放流期間内の河川水質を把握します。

○評価方法

流水の清潔の保持がなされているかどうかを評価します。

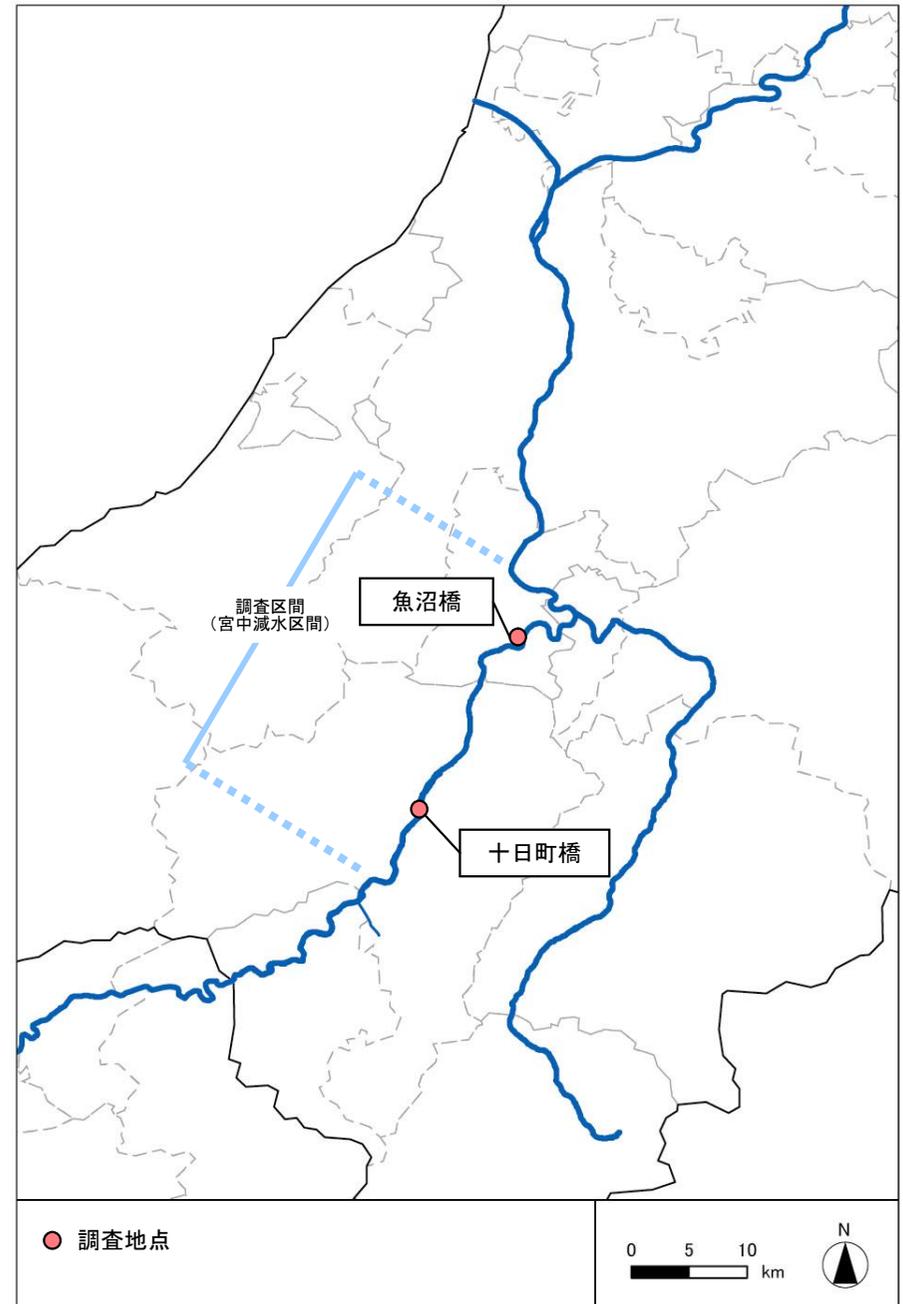
○調査時期

毎月1回。

○調査方法

調査地点で採水した水を室内で分析します。
分析項目は、SS、BOD等とします。

※水質汚濁防止法に基づき公共用水域水質調査を実施している地点の調査結果を本調査としている。



平成22年度 河川利用状況調査

○調査目的

釣りやその他の河川の利用実態を把握します。

○評価方法

河川の利用者が見られるかどうかを評価します。

○調査時期

夏季（7月の最終日曜日、7月の最終日曜日の翌日）、秋季（11月3日）、冬季（1月の第2月曜日）

※西大滝区間と同一日に実施。

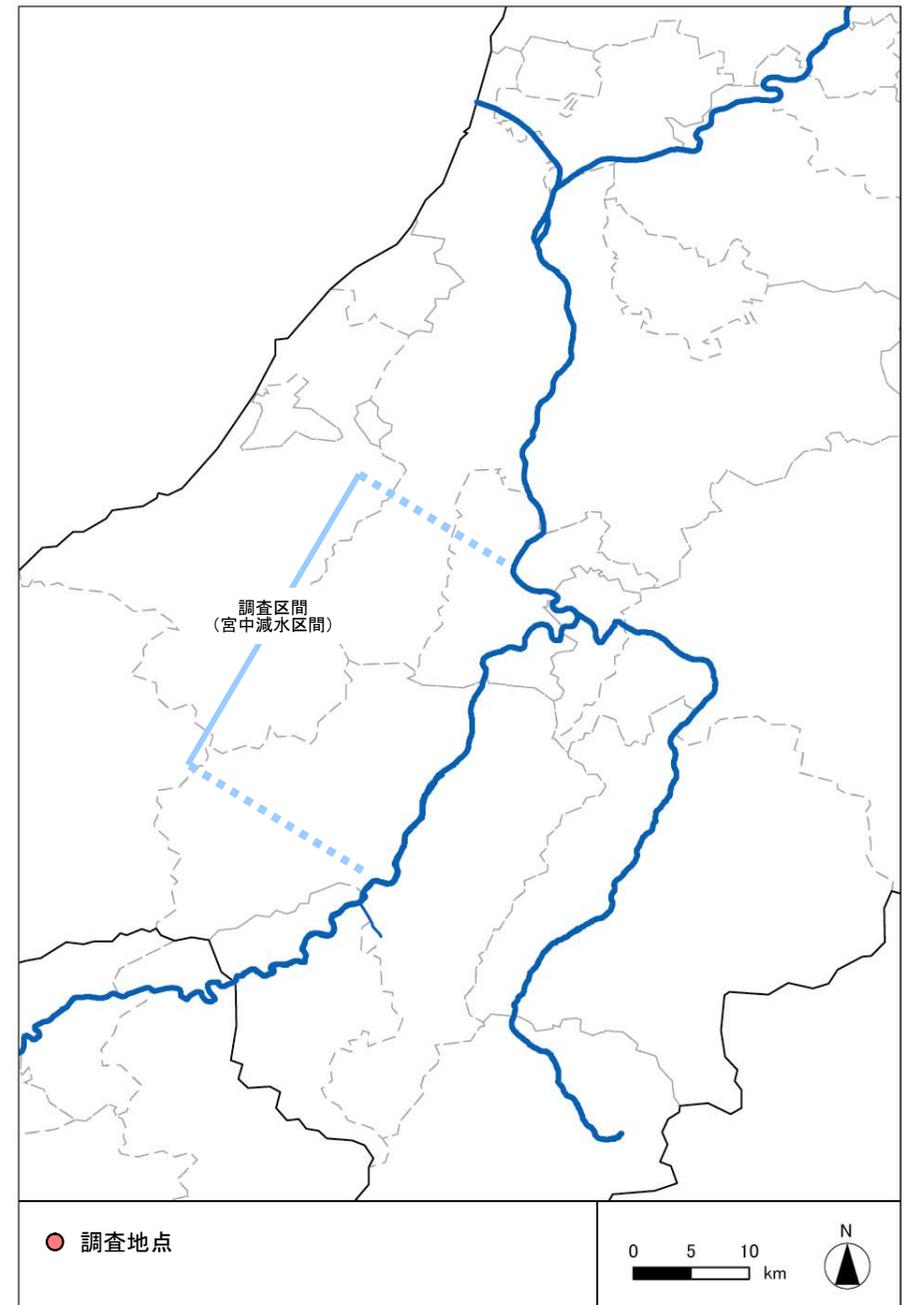
○調査方法

河川沿いを踏査して、河川や河川敷等の利用状況（利用者の構成、利用者数、利用内容）を記録します。

また、必要に応じて、実際に利用している方にアンケートを行って、利用の目的等を記録します。



河川利用実態調査状況



平成22年度 釣場適性把握調査

○調査目的

釣り場として利用可能な範囲を把握します。

○評価方法

釣り場として利用可能な範囲を評価します。

○調査時期

夏季の釣りの最盛期に1回。

○調査方法

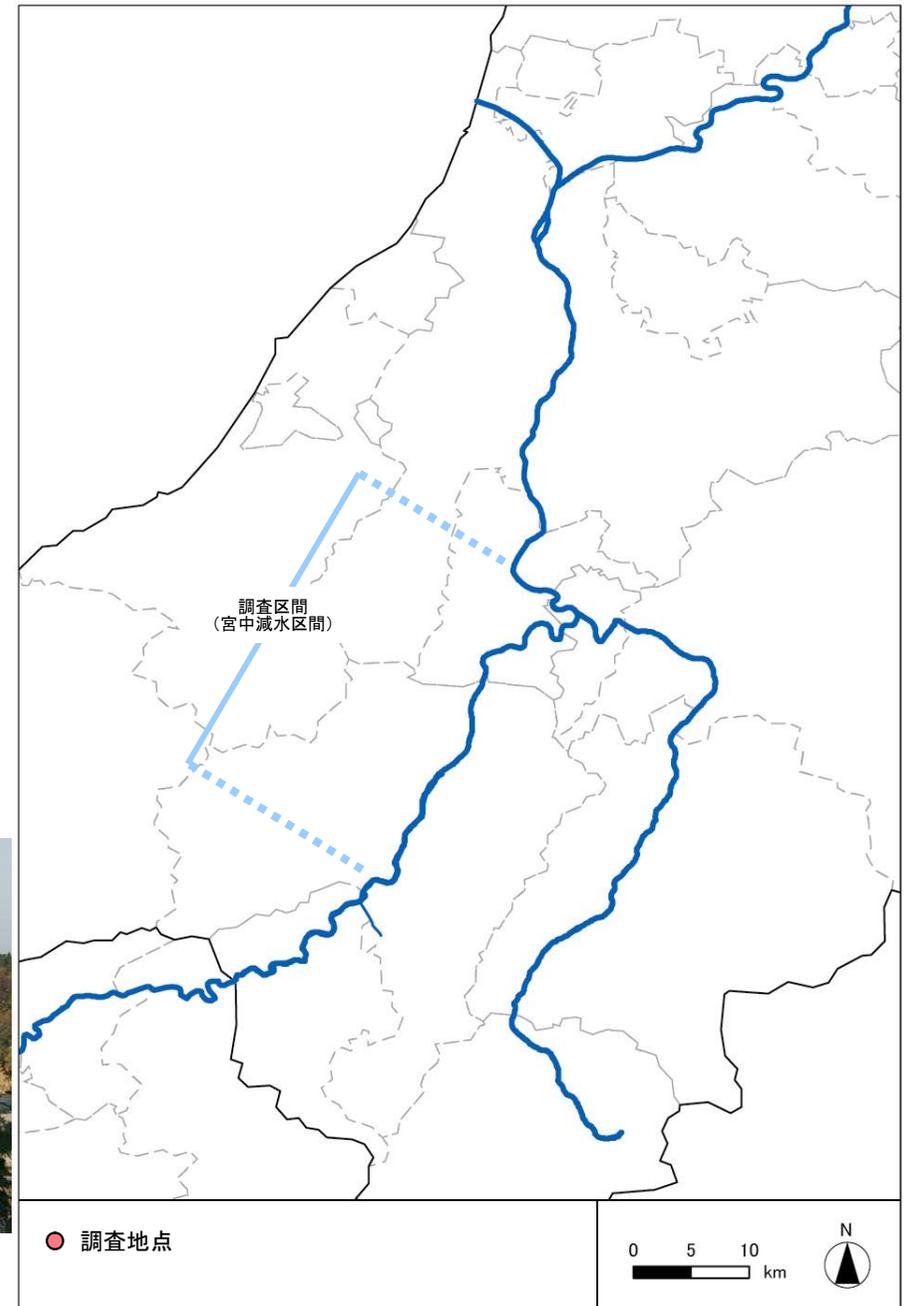
釣り場等の適地などを漁業協同組合の方とともに現地確認し、その分布状況について聞き取りを行います。



例:川井大橋上流



例:卯ノ木



平成22年度 舟下り適性把握調査

○調査目的

河川利用の一形態として舟下り（ラフティング等）の適性を把握します。

○評価方法

舟下りとして、利用可能な範囲を評価します。

○調査時期

夏季に1回。

○調査方法

試験的に川下りを行い、その後聞き取り等を行うことにより、その現状を把握します。

